



2020年8月31日発行



今回の紙面から（ページと内容）

会長挨拶	1
第38回大会のお知らせ	2
第14回国際春季フォーラムのご案内	4
終身会員の登録申請について	4
理事会より	4
編集委員会より	6
大会運営委員会より	7
広報委員会より	8
学会賞委員会より	8
日本英語学会2019年度会計報告	9
日本英語学会2020年度予算計画	10
言語系学会連合について	12
人文社会科学系学協会男女共同参画	
推進連絡会（GEAHSS）について	12
事務局より	12

会長挨拶

会長 廣瀬 幸生

コロナ禍のなか、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で社会全体が一変するなか、教育現場や研究環境にも大きな混乱がもたらされています。学会活動も当然制限を受け、日本英語学会でも、感染症拡大防止のため、5月9日・10日に予定されていた第13回国際春季フォーラム（SF13）を中止せざるを得ませんでした。

大会の開催中止は、日本英語学会設立以来、初めての決定であり、その決断は大変難しいものがありました。何よりもまず、研究発表を予定されていた方に中止によって不利益が及ばないようにするのを最優先とし、「学会ウェブサイトにはアブストラクトが掲載されている全ての発表は、SF13において正式に発表されたものと見なす」など、すでにウェブサイトで公表されている措置

を講じました。これによって、SF13は研究発表の場としては存続し、来年度の国際春季フォーラムは第14回大会（SF14）となります。SF14は、現地開催できなかったSF13の開催校である関西大学で改めて開催させていただくことになっています。

秋の年次大会については、これまでのところでは、茨城大学での通常開催を前提としてプログラムが準備されてきています。特に公開特別シンポジウムとして、昨年度は言語系学会連合との共催で「ことばは現実をどう捉えるか—ことばの対照研究のおもしろさ—」を開催しましたが、今回は、伊藤たかね前会長に世話人をお願いし、日本英文学会との共催で「今、英語教育を考える—英語にかかわる研究の視点から—」というシンポジウムを予定しています。これは、英語民間試験導入の是非との関係で英語教育の問題が特にここ何年か社会的にも関心を集めているので、日本英文学会からも講師を招いて、学術的な英語研究の観点から英語教育について論じ、一般に向けて発信することを意図するものです。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染者数が7月中旬以降再び増え始め、しかも、秋以降は感染がさらに拡大することが懸念されている現状に鑑みると、感染拡大防止上、茨城大学での現地開催は中止せざるを得ない状況にあります。学会としてはこの状況を踏まえ、オンライン開催の可能性を現在（8月上旬）検討しております。その検討結果に基づき、現地開催中止の場合は、オンライン開催での対応についてウェブページで会員の皆様に正式にお知らせいたします。

年次大会での*Conference Handbook*は、昨年度は紙印刷版と電子版の両方を作成しましたが、今年度からは電子版のみとなります。また、*JELS*については、昨年度の発表を掲載した*JELS 37*からPDF版がウェブサイトへアップされ、オープ

ンアクセスが可能になりました。これによって、学会での研究発表論文がより多くの研究者の目に触れることを期待したいと思います。

昨年のニューズレター71号でお知らせしたように、学会の顕彰制度の延長として、大学院生会員が新人賞を受賞した場合、その受賞者を日本学術振興会の「育志賞」候補として学会から推薦することになりました。これを受けて、昨年度新人賞を受賞された九州大学大学院の林愼将氏が推薦要件を満たされたので、今年度の育志賞候補に学会から推薦させていただきました。日本英語学会からの初めての推薦であり、ぜひうまくいくことを願うとともに、この制度が、今後、大学院生会員にとっての励みにもつながっていくことを期待しています。

ELの国際化の一環として、主に海外の研究者からなる特別編集委員制度（Editorial Advisory Board）を設けていますが、その委員44名の5年任期がEL 36:2（2020年3月）で切れました。そこで、44名の方にこれまでのお礼と基本継続更新を依頼するメールを学会から差し上げたところ、1名（Norbert Hornstein氏）から辞退の申し出がありましたが、残りの43名については継続となりました。さらに、これまではアメリカの研究者が多かったので、地域の多様性も考慮し、フランスのBert Cappelle氏、イギリスのRaphael Salkie氏、そして韓国のELSOK会長のYoung-Kook Kwon氏に新規をお願いしました。継続と新規を合わせて46名の特別編集委員がEL 37:1（2020年9月）から就任されますので、お知らせいたします。

コロナ禍のなかでの学会運営は多くの困難を伴うことを実感しています。各種委員会の先生方のお知恵もお借りしながら、この閉塞感のある難しい状況に何とか対応していければと思っていますが、力及ばぬ点多々あると存じます。会員の皆様には、どうかご理解とご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

第38回大会のお知らせ

日時：2020年11月7日（土）・8日（日）

場所：茨城大学水戸キャンパスでの開催を中止し、オンラインでの開催に変更

日本英語学会第38回大会は、大会運営委員会と開催校のご協力とご尽力により、着々と準備が進められておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからない中、熟慮を重ねた結果、残念ながら現地での開催を中止することになりました。

代わりにオンラインでの開催を行う予定ですが、シンポジウム（公開特別を含む）3件につきましては、延期といたします。また、それ以外のセッションでも、オンライン開催の場合は辞退される方もおられます。オンライン開催用のスケジュールならびにプログラムにつきましては、9月中旬以降学会ウェブサイト（<http://elsj.jp/meeting/>）にて掲載予定ですので、そちらでご確認ください。

以下に掲載いたしますのは、現地開催した場合に予定していた大会スケジュール、特別講演に関する情報、ならびに、シンポジウムに関する情報です。

11月7日（土）

9:30～11:45	ワークショップ
11:30	受付開始
12:00～12:50	総会
13:00～14:55	研究発表
15:15～18:00	公開特別シンポジウム

11月8日（日）

9:00	受付開始
9:30～12:10	研究発表/シンポジウム
13:10～15:25	特別講演

今年度は、2件のワークショップ、23件の研究発表、6件の特別講演と3件のシンポジウムが予定されていましたが（シンポジウムは一律延期となりました）。特別講演の講師と題目は以下の通りです。

- ・小野寺典子「歴史語用論の歩み：分類・射程・
拡がりから見える分野の特徴」
- ・呉人恵「異なるタイプの言語の対照から見える
普遍性—コリヤーク語と英語の場合」
- ・酒井邦嘉「脳からみた統辞構造の計算」
- ・中澤和夫「動的文法理論とその展開—語法文
法研究から理論へ」
- ・中西公子「自由選択表現の意味と分布について」
- ・三宅知宏「日本語研究と一般言語理論研究
—「使役」の問題を中心に—」[辞退]

シンポジウムの内容は以下の通りでした。〔 〕
内は司会者、()内には講師(または指定討論者)
と題目を記載しています。)

- A. 「今、英語教育を考える—英語にかかわる研
究の視点から」(公開特別)[伊藤たかね](長
谷川信子「句構造と機能語、主語 vs. 主題」、
井上逸兵「いわゆる『AI時代』の英語教育」、
阿部公彦「『4 技能均等』の限界とその先」、
白畑知彦「(実践的) コミュニケーション能
力の育成と入試でのスピーキングテストの実
行可能性について考える」、水口志乃扶「脱
日本人の英語に向けて」)
- B. 「Headとラベル付けをめぐる」[奥聡](奥
聡「ラベリングとインターフェイス」、杉村
美奈・小畑美貴「ラベルと形態素の具現化
の関係—動詞連結を中心に—」、中村早百合
「日本語の複合動詞の主要部」)
- C. 「タスク指向対話データが拓く発話理解と相
互行為の言語研究」[吉田悦子](川端良子・
吉田悦子「共有信念の更新と構築：課題達
成プロセスに特化する言語表現」、野村佑子
「引用から見る課題達成談話における合意形
成場面の相互行為：日英語母語話者の談話
データからの一考察」、谷村緑「目的指向の
多人数・異文化会話コーパスにおけるスタ
ンスの表明と調整—人称代名詞 I, we, youの相
互行為上の役割—」、土屋慶子「依頼を伴う

談話標識「じゃあ」/ Nowと共同行為：チー
ムリーダーの発話・視線を含むマルチモーダ
ル分析」)

本大会の(シンポジウム以外の)詳しい内容に
つきましては9月以降日本英語学会ウェブサイト
に掲載されます「オンライン用のスケジュール・
プログラム」、「発表要旨」ならびに「ワークショッ
ププログラム」(ダウンロード可能)をご覧ください。

◇ 大会の受付について

オンライン開催となったため、大会の受付はあ
りません。また、参加費も徴収しませんが、原則
として、会員のみが参加できるように運営する予
定です。具体的には、オンライン大会参加にあ
たって必要なZoom情報 (URL、ID、パスワード)
を載せたファイルにパスワードをかけ、開催日1
週間前を目途に学会ウェブサイトにはアップする予
定です。このファイルを開くためのパスワード
は、今年度発行のEL36:2の裏表紙裏に記されて
いるパスワードになります。

◇ 総会について

7日(土)の午前中にオンラインで開催予定で
す。詳しくは、9月中旬以降日本英語学会ウェブ
サイトに掲載予定の「オンライン用のスケジュー
ル・プログラム」をご覧ください。

◇ 懇親会について

オンライン開催のため、懇親会は行いません。

◇ 大会優秀発表賞について

2015年11月開催の第33回大会より、大会優秀
発表賞の審査が行われています。これは事前に審査
希望を申請した研究発表を審査して表彰するもの
です。大会終了後に審査結果をまとめ、ウェブサ
イトおよびニューズレターで受賞者を発表します。

今年度はオンライン開催のため、行うかどう
か、行う場合はどのようにするか、現在鋭意検討
中です。9月中旬を目途に方針を決定し、学会
ウェブサイトにてお知らせします。

◇ 証明書等の発行について

今年度は、オンライン開催のため、大会出席の証明書等は発行いたしません。

◇ 「親と子の部屋」について

オンライン開催となったため、今年度の「親と子の部屋」の設置は行いません。

◇ 電子版の*Conference Handbook*について

昨年度第37回大会は*Conference Handbook*(CH)の紙印刷版と電子版の両方を作成しましたが、今年度第38回大会からは電子版のみの作成となります。大会の1週間ほど前から11月末日までの間、学会ウェブサイトからダウンロードできるようにする予定です。

なお、昨年度と同様、データ保護の観点から、掲載期間が終わるとCHは学会ウェブサイトから削除されますので、お手元に残したい場合は、必ず掲載期間内にダウンロードしていただきますよう、お願いいたします。

第14回国際春季フォーラムのご案内

第14回国際春季フォーラムは次の通り開催される予定です。

日時：2021年5月8日(土)・9日(日)

場所：関西大学千里山キャンパス

(〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35)

研究発表とワークショップの募集につきましては、同封の案内をご覧ください。新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては、オンラインでの開催になる可能性もあります。

終身会員の登録申請について

2017年度より、終身会員の登録申請を受け付けています。終身会員は、満56歳になった年度から10年間、会費を全納した会員を有資格者とし、所定の申請書を提出し、終身会員会費3万円を支払うことで認められます。終身会員の方には、EL、ニューズレターなどが送付されるほか、秋

の大会および国際春季フォーラムの懇親会に無料で参加していただけます。また、制度開始当初から設けられていた経過措置については、2020年度でもって終了することが第80回理事会で承認されました。終身会員に関する規定等については、学会ホームページ上にある新着情報、またはトップページの「入会申込み」から「終身会員登録手続きについて」という項目をご覧ください。来年度の登録申し込みは、4月1日から4月25日です。

理事会より

◇ 会計

2020年6月16日から27日の間に開催されました第80回理事会（メール会議）において、日本英語学会2019年度収支決算書と2020年度予算計画書が承認されました。

収支決算および予算計画の内容については、このニューズレターの9ページから12ページに掲載されておりますのでご覧下さい。

◇ 役員の異動

理事（退任）

杉岡洋子氏、高橋英光氏、西岡宣明氏、廣瀬幸生氏、福井直樹氏、鷲尾龍一氏、以上6名の方が2020年3月31日付けで退任されました。

評議員（退任）

牛江一裕氏、小野隆啓氏、藤本滋之氏、水口志乃扶氏、以上4名の方が2020年3月31日付けで退任されました。

監事（退任）

岡崎正男氏、小野尚之氏が2020年3月31日付けで退任されました。

学会賞委員長（退任）

水口志乃扶氏が2020年3月31日付けで退任されました。

編集委員長（退任）

金子義明氏が2020年3月31日付けで退任されました。

ご退任の皆さま、これまで日本英語学会の運営にご尽力いただきましたことに対し、厚くお礼申し上げます。

副会長（就任）

金子義明氏が2020年4月1日付けで就任されました。

理事（新任）

大室剛志氏、岡崎正男氏、小野尚之氏、加賀信広氏、長谷川宏氏、渡辺明氏、以上6名の方が2020年4月1日付けで就任されました。

なお、岡田禎之氏、金子義明氏、藤田耕司氏、遊佐典昭氏、吉村あき子氏は、理事2期目となります。

評議員（就任）

大橋一人氏、岸本秀樹氏、田子内健介氏、田中一彦氏、村尾治彦氏、以上5名の方が2020年4月1日付けで就任されました。

監事（就任）

磯野達也氏、都築雅子氏が2020年4月1日付けで就任されました。

学会賞委員長（就任）

加賀信広氏が2020年4月1日付けで就任されました。

編集委員長（就任）

岡崎正男氏が2020年4月1日付けで就任されました。

◇ 会員数の変動について

現在の会員数は1317名（6月18日現在）です。内訳は、学生会員28名、通常会員1121名（海外会

員17名を含む）、維持会員109名、終身会員43名（顧問8名を含む）、賛助会員16団体となっております。

◇ 海外学会との交流について

○2018年度より、ISLE（The International Society for the Linguistics of English）とは相互の大会への参加を推し進めておりますが、昨年度からは、学会ウェブサイトにてISLEの大会情報を載せることで、個人レベルでの積極的な参加を奨励することになりました。なお、今年度開催予定だったISLE6は、新型コロナウイルスの影響で延期となりました。

○ELSOK（The English Linguistic Society of Korea）との交流の一環として、本学会の会員として澤田治氏（神戸大学）が5月30日（土）にDongduk Women's Universityで開催される予定だったELSOKのSpring Conferenceにゲストスピーカーとして参加する予定でしたが、新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

また、5月9日（土）・10日（日）に行われる予定であった第13回国際春季フォーラムには、ELSOKのLee Kyoung-Nam氏をゲストスピーカーとしてお招きしていましたが、新型コロナウイルスの影響でキャンセルとなりました。

◇ オンライン化推進検討のためのワーキンググループの設置について

前事務局から受け継いだ課題として、学会運営・業務をどこまでペーパーレス化・オンライン化できるかという点がありました。それを受けて、第80回理事会では、オンライン化推進検討のためのワーキンググループ（WG）の立ち上げが認められました。メンバーは、小野尚之氏（理事・委員長）、遊佐典昭氏（理事）、磯野達也氏（監事）、木村宣美氏（大会運営委員長）、大関洋平氏（大会運営委員）、坂本祐太氏（大会運営委員）、江連和章氏（広報委員長・オブザーバー）、和田尚明氏（事務局長）です。本来は、将来的な

ヴィジョンを採るためのWGでしたが、新型コロナウイルスの影響で大会の通常形態での開催も危ぶまれる可能性があるため、大会運営委員会からご参加いただき、大会のオンラインでの開催の可能性についても審議してもらうことになりました。

これを受けて、本WGの第1回目の会合が2020年8月8日にZoomで行われましたが、この会合には廣瀬会長・金谷事務局補佐にも加わっていただき、主に秋の大会のオンライン開催について話し合われました。「第38回大会のお知らせ」のところで述べました、現地開催の中止、オンライン開催の形態などは、この会合で意見交換した結果、会長・事務局長案を了承していただき、理事会で承認されたものです。

編集委員会より

◇ 第19期編集委員会 (*English Linguistics* 第37～38巻編集担当) 委員長の交代について

第19期編集委員長の金子義明氏は、2020年4月1日付で学会副会長に就任し、同日付で第19期編集委員長および編集委員を退任しました。これに伴い、第19期編集委員(2期目)の岡崎正男氏が同日付で第19期編集委員長に就任しました(任期: 2020年4月1日～2021年11月30日)。

◇ *English Linguistics* 第36巻2号 (2020年春号) の刊行について

EL 36巻2号(春号)が刊行されました。Article 2編、Notes and Discussion 1編、Review Article 2編、Review 3編が掲載されています。会員の皆様には刊行が遅れましたことをお詫び申し上げます。

◇ *English Linguistics* 第37巻1号 (2020年秋号) の刊行予定について

EL 37巻1号(秋号)は2020年9月刊行予定です。Article 2編、Brief Article 1編、Review 5編が掲載される予定です。

◇ *English Linguistics* 第37巻2号 (2021年春号) の応募論文について

2020年4月1日締め切りで投稿された一般論文の総数は15編で、投稿部門と投稿分野の内訳は、Article 11編 (Syntax 5, Semantics 1, Pragmatics 1, Cognitive Linguistics 1, Phonology/Syntax 1, Syntax/Formal Semantics 1, Semantics/Pragmatics/Cognitive Linguistics 1)、Brief Article 3編 (Syntax 2, Semantics 1)、Notes and Discussion 1編 (Syntax) でした。また、「4ヶ月書き直し」として再投稿された論文は、Brief Article 1編 (Cognitive Linguistics) でした。

以下の表は、懲慥によるReview Article 1編およびReview 5編、37巻1号に応募されて「4ヶ月書き直し」と判定され37巻2号に再投稿された論文1編も含めた、37巻2号の審査状況です(2020年7月31日現在)。

	応募数	採用	不採用	取り下げ	審査中
AR	11	0	4	0	7
BA	3	0	2	0	1
N&D	1	0	0	0	1
RA	1	0	1	0	0
Review	5	0	0	0	5
4ヶ月書き直し					
AR	0	0	0	0	0
BA	1	0	1	0	0
合計	22	0	8	0	14

なお、「特別企画2019」の事前審査(2019年12月15日締め切り)には応募がありませんでした。

◇ *English Linguistics* 第38巻1号 (2021年秋号) への投稿について

2021年9月発行予定の*EL* 38巻1号の応募締め切りは、2020年9月20日24時(必着)です。応募される方は、学会ホームページに記載されている投稿規定および書式に関する注意事項を通読され、最新版の規定に則って作成し、ネイティブ・チェックを受けた原稿をご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

◇ 「特別企画2020：特集テーマによる一括投稿論文」の公募について

編集委員会は、EL 38巻の編集に向けて、本年度も「特別企画2020：特集テーマによる一括投稿論文」の公募を行うことを決定しました。事前申し込みの締め切りは、2020年12月15日です。公募案内が学会HPに掲載されていますので、ご覧の上、ご応募ください。

大会運営委員会より

◇ 第38回大会個人研究発表への応募の審査結果

個人研究発表には37件の応募があり、審査の結果23件が採用されました。

◇ 第38回大会特別講演について

大会での招聘・選任制度に形骸化している面があるのではないかと指摘を受け、大会運営委員会では、従来の招聘発表に代わる、大会運営委員会の推薦による企画として、特別講演を設けました。この講演では、1) 英語学分野またはその関連分野・隣接分野に関する内容、2) 学会の会員に対して、大会に出席する動機付けや同じ大会で発表したいと思わせるような呼び込み効果が期待されるものが推薦の対象となります。なお、第38回大会から、特別講演も、研究発表・シンポジウムと同様に、*Conference Handbook*に掲載することになりました。[オンライン開催となります。]

◇ *Conference Handbook* 原稿作成上の注意の改定について

Conference Handbook が第38回大会から電子版でのみ作成されることから、1) 従来のB5版ではなく、A4版とする、2) 余白は製本ページの上・右・左を最低2cmとする、3) フォントサイズは10～12ポイントとすることになりました。なお、原稿の提出は、編集作業を考慮し、これまでと同様に、2か月前とすることになりました。

◇ *Conference Handbook* とスライドの同一性について

*Conference Handbook*とスライドの同一性に関しては、*Conference Handbook*原稿提出後、研究は進展するので、*Conference Handbook*との多少の変更を認めてもよいのではないかということについて、大会運営委員会で、検討を重ね、「応募時の審査を受けた時の内容と大幅に異ならない限り、認める。」ことになりました。

◇ *JELS* 原稿作成上の注意の改定について

*JELS*が電子版で作成されることから、字句の修正（「CD-ROMからの読み出し時に」を「学会のウェブサイトに掲載される電子版で」(和文)に、「as a CD-ROM」を「on the ELSJ website」(英文)に修正する。)と*JELS*原稿投稿受付アドレスの修正 (conference-jels@kaitakusha.co.jp) に伴う改定を行いました。

◇ 第13回国際春季フォーラム報告

日本英語学会第13回国際春季フォーラムは、2020年5月9日・10日に関西大学において開催される予定でした。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大への懸念、および大会参加者とその関係者の健康と安全のため、2020年3月24日付けで第13回国際春季フォーラム (SF 13) の開催を中止することが決定されました。

今年度の大会では、国内からの3名の研究者による招待講演（全体講演）および韓国英語学会 (ELSOK) からの1名の招待発表（研究発表）が予定されていました。また研究発表17件 (ELSOKからの招待発表を含む)、ポスター発表10件（このうち1件辞退、1件確認取れず）、ワークショップも1件が採用されました。書籍展示には3社が参加する予定でした。なお、新型コロナウイルス感染拡大の懸念により、大会中止に先立って韓国英語学会からの招待発表がキャンセルとなりました。

開催中止に際して、以下の基本方針が発表者に送付されるとともに、学会ウェブサイトで公開されました。

1. 学会ウェブサイトにはアブストラクトが掲載されている全ての発表は、SF 13において正式に発表されたものと見なす。
2. 採択されたアブストラクトの著者は、「JELS投稿規定」に明記されている条件の下で、その論文あるいは報告をJELS 38に掲載することができる。
3. SF 13での優秀発表賞の選考は行わない。
4. SF 13では学生会員発表助成金の支給は行わない。
5. 他の学会に応募するなどの理由から発表の辞退（取り下げ）を希望する場合は、4月30日までに、forum-elsj☆kaitakusha.co.jpまで連絡されたい（☆を@に置き換えてください）。

なお、4月30日時点で、発表者からの辞退する旨の連絡はありませんでした。

フォーラムの開催に向けた準備をしていただいた開催校の岩田彩志先生をはじめとする開催校委員の先生方と五十嵐海理実行委員長をはじめ大会運営委員の先生方のご協力に、心より御礼申し上げます。

第9回国際春季フォーラムより、国際春季フォーラム優秀発表賞の審査が行われていますが、今年度は、フォーラムの中止に伴い、第13回国際春季フォーラム優秀発表賞の選考は行わないことにしました。

◇ 研究発表応募規定の改定について

提出書類に不備があった際の対応に関する規定がないことから、「なお、メールに添付された書類に不備があった時、審査対象にならないことがある。」を第10項に追加することに伴う改定を行いました。

広報委員会より

◇ ELバックナンバーのオープンアクセス化について

広報委員会では、刊行後2年以上経過したELのJ-STAGE 3（科学技術情報発信・流通総合システム）でのオープンアクセス化に取り組んでいます。2020年7月末日現在、EL第32巻2号（2015）まで公開されております。以下のURLをご参照ください。<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/elsj>

◇ EL 最新刊 PDF 版の会員向け公開について

2016年2月よりEnglish Linguistics Online の名称で学会ウェブサイトの以下のURLにてEL最新刊のPDF版論文を公開しています。2020年6月中旬にEL 第36巻1号・2号の掲載論文がアップロードされました。なお、EL Online のPDFへのアクセスには、印刷版ELの毎巻2号の裏表紙内側に印刷されるIDとパスワードが必要となります。http://elsj.jp/english_linguistics-eng/english-linguistics-online/

学会賞委員会より

◇ 新人賞と学会賞（論文）の応募状況

2020年度新人賞と学会賞（論文）の応募は4月15日に締め切られました。新人賞と学会賞（論文）への応募はありませんでした。

◇ 学会賞（著書）の応募状況

4月15日に締め切られた2020年度学会賞（著書）には2件の応募がありました。会員としての会費納入条件を満たしており、また応募著書は2年以内に刊行されていることが事務局により確認されましたので、応募申請は2件とも受理されました。審査領域は、意味論1件、認知言語学1件です。学会賞（著書）は、一次審査と最終審査の二段階で選考され、現在、厳正に審査が行われており、最終選考結果は本年11月に開催の日本英語学会総会で報告されます。

日本英語学会2019年度会計報告

2019年度各種収支決算書(2020年4月1日現在)
が監事(都築雅子氏、磯野達也氏)による監査を
経て、6月16日から27日にかけてのメール会議に
よる第80回理事会で承認されました。

日本英語学会2019年度通常予算収支決算書

日本英語学会2019年度
学生会員発表助成金収支決算書

日本英語学会2020年度予算計画

以下に記載いたします2020年度各種予算計画書
が6月16日から27日にかけてのメール会議による
第80回理事会で承認されました。

日本英語学会2020年度通常予算計画書

日本英語学会2019年度
市河三喜研究助成金収支決算書

日本英語学会2020年度
学生会員発表助成金予算計画書

日本英語学会2020年度
市河三喜研究助成金予算計画書

言語系学会連合について

今年度は、全国語学教育学会が運営を担当することになりました。運営委員、監査委員、事務局は以下の通りです。

【運営委員】（任期は2020年4月より1年間）

シャテラン・ロバート（委員長、全国語学教育学会）、野田尚史（副委員長、日本言語学会）、森山卓郎（日本語学会）、小林ミナ（日本語教育学会）、大室剛志（日本英語学会）

【監査委員】

月本雅幸（日本語学会）（学会として2019年4月より2年間担当）、小野正樹（日本語教育学会）（学会として2020年4月より2年間担当）

【事務局】（任期は2020年4月より1年間）

カイト由利子（事務局長、全国語学教育学会）、マルコム・ウェイン（運営委員長補佐、全国語学教育学会）、白川順子（全国語学教育学会）

言語系学会連合の詳細と、連合に加盟している学会の活動予定等については、下記のウェブページをご覧ください。

<http://www.nacos.com/gengoren/index.html>

人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会（GEAHSS）について

幹事学会持ち回り制度の導入に関するGEAHSS役員会の再提案について、「日本英語学会には、ジェンダー平等（男女共同参画）を推進する部署はなく、今後幹事学会を引き受けることはできないこと、またGEAHSSに設置予定の各種委員会や各種ワーキング・グループも、加盟学会の自主性に基づいて参加できる体制にしていきたい」旨回答しました。また、一昨年(2018)のGEAHSSからの依頼に応じ、本学会員にご協力いただきま

した「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査（第1回）」の結果に基づき、内閣府男女共同参画局にGEAHSSから要望書が提出されました（2020.04.22）。詳細については下記をご覧ください。

https://hs-7084816.t.hubspotfree-hh.net/e2t/sc2/MmZ-8yk2ZHqW7XktSv66Z3XKW5fn9zB7q6dGyW2__37P6-RYK2dBzP8M04

事務局より

◇ 会員数について

「理事会より」の欄でもお伝えしたように、2020年6月18日現在の会員総数は1317名です。

◇ 会費納入のお願い

会費未納の方は、学会支援機構から送られます振込用紙で納入して下さいますようお願いいたします。2年間滞納されますと、会則第8条第4項により、自動的に退会扱いになりますので、ご注意下さい。

◇ 学生会員登録（継続会員）について

学生会員登録は年度ごとの登録で、自動更新ではありません。申告期間内にお申し出がない場合には、通常会員として会費請求がなされますのでご注意下さい。今年度の学生（継続）会員手続きは、4月25日に締め切りました。

手続きの方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。なお、来年度も4月1日～4月25日の間を申請期間とする予定ですが、今年のようなコロナ禍のために申請期間内に学生会員を証明する書類を送付できない場合は、あらかじめ事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にご相談くださいますよう、お願いいたします。

◇ 学生会員登録（新規入会）について

年度途中で学生会員として新規に入会される場合には、申告期間に関わらず、いつでも学生会員として登録ができます。この措置は、新規入会者のみに認められるものですのでご注意下さい。

詳しくは、学会ウェブサイトをご確認下さい。

◇ **EL, JELSへの論文投稿に関するお願い**

EL, JELSに論文を投稿される際には、日本英語学会ホームページに掲載されております「*English Linguistics* 投稿規定」「*JELS*投稿規定」をよくお読みいただき、規定を遵守したうえで投稿されるようお願いいたします。編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には必ず指定されている宛先のアドレスに送信して下さい。開拓社から送られる受領確認用の自動返信メールアドレスに送信されても受理できません。

ELに関して、編集委員会あるいは開拓社宛に投稿・通知する場合には、メールの件名およびメール本文には「*English Linguistics* 投稿規定」ページ末尾の「投稿論文のEL掲載までの手順案内」の表で指定されている情報を必ず明記して下さい。

JELSや所属機関のworking papers等に掲載された研究（の一部）を発展させてELに投稿する場合には、論文審査が公平で厳正に行えるよう、投稿者自身のこれまでの関連する研究論文の情報は必ず記載して下さい。なお、相互に匿名による審査体制であることに留意し、本文等でそれらに言及するときには、三人称表現をご使用下さい。

◇ **EL掲載論文の再録やレポジトリへの登録に関するお願い**

ELに掲載された論文の著作権は日本英語学会にあります。そのため、ELに掲載された論文を他のジャーナルや著書に再録する場合には、本学会の許可が必要です。再録をご希望の場合には、事務局宛（elsj-info@kaitakusha.co.jp）にお知らせ下さい。

また、各大学で「学術情報レポジトリ」や「電子アーカイブ」にELに掲載された論文を登録することを希望される場合、事務局までお知らせ下さい。日本英語学会では、発行後2年以上経過した論文の登録をお認めしています。無断での再録・登録は著作権侵害となりますので、ご注意願います。

◇ **JELS掲載論文の再録・登録に関するお願い**

JELS掲載論文についても、再録および学術レポジトリや電子アーカイブへの登録や個人のウェブサイトへ掲載の場合には、EL掲載の論文と同様に、事前に事務局までお申し出下さい（elsj-info@kaitakusha.co.jp）。

JELS掲載論文については、発行後1年を経過したものについては、申し出があれば再録や学術レポジトリなどへの掲載をお認めしています。JELS 37に関しましては、刊行当初からオンライン上でのオープンアクセスとしましたので、再録や学術レポジトリなどへの掲載は自由でございます。

◇ **EL公費購入のお願い**

ご所属の大学図書館や研究室でELを購入されていない場合には、ぜひ購入の手続きをしていただきたく存じます。ELがより多くの研究者に知られるだけでなく、本学会の運営にも益するところがありますので、よろしくお願いいたします。

◇ **電子版投稿・審査体制に関連するお願い**

研究発表応募、ELへの投稿、および学会賞・新人賞への応募の電子化に伴い、学会から会員の方々への連絡は電子メールで行っています。所属の異動等に伴い連絡用アドレスの変更がある場合には、学会にもお知らせいただきますようお願いいたします。

なお、事務局あるいは各委員会からメールで連絡を差し上げた際の返信につきましては、通常一週間の余裕をみてお願いしておりますので、その期間内にご返信をいただけますようご協力下さい。

◇ **連絡先等変更のご連絡のお願い**

メールアドレスや住所等の連絡先、及び所属に変更が生じた場合には、速やかに学会支援機構にご連絡下さい。連絡方法については、学会ウェブサイトをご覧ください。

◇ 「親と子の部屋」の紙媒体でのご案内の廃止について

昨年度までは「親と子の部屋のご案内」と「親と子の部屋利用案内」の二種類の紙媒体をお送りしておりましたが、前者については来年度から、後者についてはこの9月から、紙媒体でのご案内を廃止することといたしました。これも学会のペーパーレス化の一環としての措置でございますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今後は学会ウェブサイトにて掲載いたしますので、ご利用をお考えの会員におかれましては、そちらでご確認いただけますよう、お願いいたします。

◇ 事務局の新メンバーについて

昨年度に言語系学会連合事務局担当書記としてご尽力いただいた金谷優氏（筑波大学）が、本年度4月1日より事務局補佐として、新たに事務局のメンバーに加わっていただくことになりました。任期は1年間です。

校、大会運営委員会および事務局で準備を進めてきたのですが、会長からの挨拶にもありましたように、（8月上旬での）現状から判断すると、茨城大学での現地開催を中止せざるを得ませんでした。ですが、会員の皆様の研究成果の発表の場である大会を2度連続で中止にすることだけは絶対に避けたいという思いもあり、7月に発足したばかりのオンライン化推進検討のためのWGの（会長も特別に参加された）第1回会合において相談した結果、できるだけ当初予定していた規模に近い形でのオンライン開催を進めることが確認され、大会運営委員会との連携のもと、現在鋭意準備中です。

このような状況下で、会員の皆様には精神的にも肉体的にも相当疲弊なさっていることと思いますが、こういう時にこそオンライン開催であっても、学会活動を通じて皆様と研究交流ができれば良いなと思っている次第です。一日も早くコロナ問題が収束し、自由で活発な学会活動ができる日が戻ってくることを祈念しております。（N.W.）

編集後記

今年初めに新型コロナウイルスのニュースが飛び込んできたときは、まさかここまで社会に影響を与えるなどとは夢にも思いませんでした。コロナ問題は学会活動においても大きな影を落とし、英語学会も例に漏れず、5月9日・10日に関西大学で行われる予定だった第13回国際春季フォーラム（SF13）は中止となりました。今年は2年に一度ELSOKと相互の大会に会員を派遣しあう年であったため、せっかくゲストスピーカーとしてご参加くださる予定であったLee Kyoung-Nam氏のご発表を拝聴することも叶いませんでした。SF13にはほかに、3つの招待講演、1つのワークショップ、17の研究発表（口頭）、8つのポスター発表が予定されていたのですが、中止せざるを得なかったことが残念でなりません。

せめて秋の大会は通常通りに開催すべく、開催

2020年8月31日発行

編集・発行	日本英語学会
代表者	廣瀬 幸生
発行所	日本英語学会
	http://elsj.jp/

〒113-0023

東京都文京区向丘1-5-2

開拓社内

電話 (03) 5842-8900
